

建材試験 センター会報 5

1970

VOL. 6

N O. 5

- ・所信 近頃、わが意を得たこと

吉岡 丹

・Ⅰ 試験報告

人工軽量骨材「メサライト」
の性能試験

・Ⅱ 業務報告

1. 昭和45年3月度受託状況
2. 会合その他の事項

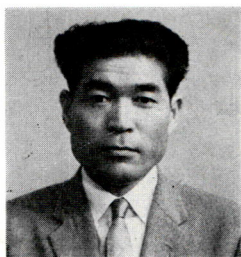


通知書

葬会一次式

6521





所信 近頃わが意を得たこと 吉岡 丹

毎日新聞に「現代学問論」という題で、物理学者湯川、坂田、武谷の3氏の対話が連載されていた。すでにお読みになった方も多いと思うが、そのなかに、研究上、わが意を得たりと感じたことが少なからずあったので、その2、3を紹介してみたい。

「よその国で、大したことはないのが、百出ようが千でようが驚かないで、10年、20年に1本か2本、いいのができることを心がけるようにした方がいいのではないか。少なくとも、基礎的な学問ではそうだ。」

(湯川秀樹)

これは国際的視野に立って物理学界について述べているのだが、国内でも、また建築の分野についても当てはまりそうなことである。流行を追わず10年に1本でいいから、独自の論文がでて欲しいということであろう。しかし、この動きのはげしい世の中に、10年などと、のんきなことはいってられないという考えもあるであろう。もちろん時流に乗った研究も必要だし、とくに工学では大切なものが多い。それはそれでいいのだが、一方では、誰も手をつけないようなものを、息長くやる勇気が欲しいということで、まったく同感を禁じ得ない。

「少数であっていいけれども、変ったことをゆうゆうとやる、そういうものを育て、激励せんといかん。それをやることはいいことである。昔よりも、もっといいことである。」(湯川秀樹)

ここで今から17年前のことを思い出す。床の摩耗の研究を、はじめて学会で発表したときに、狩野、浜田、故十代田の諸先生から、質疑というよりは、むしろはげましの意をこめた質問をいただいた。その後も折にふれ鞭撻をいただいたが、諸先生は期せずして、この湯川博士の言と同じことを実行しておられたのであろう。おそらく私ばかりでなく、他の多くの方々にも同様にされておられたのであろうと推察する。床の摩耗とか、すべりとか、弾力性とか、自分ではとくに変わったことをやってきたとは思っていないけれども、研究者はたしかに少なく、このはげましが若い心の支えになってきたことは確かである。初心忘るべからずとば

かりに、馬鹿の一つおぼえのようにやってきたのだが、苦楽迂余曲折はあったものの、要するに次第に面白く、楽しくなってやめられなくなったというのが本当のところである。

「学問というものはね、何といっても発見でなければおもしろくない。」(武谷三男)

「学問というものは楽しいもんだと、私は思ってきた。自分のやってることがうまくいかん、苦しいには違いないが、それでも、そこに楽しみがあるから、いつまでもやってる。論語にある“これを知る者は、これを好む者にしかず。これを好む者は、これを楽しむ者にしかず”です。」(湯川秀樹)

まさにわが意を得たりの言であるが、同感される方も多いと思う。ただ、いつまでもやってるといっても、惰性でだらだらと同じことをやってるという意味では、もちろんないであろう。そこにオリジナリティーと発見が、絶えずなければならぬことは当然であるし、常に自戒すべきことと反省させられた次第である。

「学問というものの一つの性格は、未来について心配する、自分の専門の立場から、人より先立って心配する。」(湯川秀樹)

この心配を中心とした話で、この対話は終わっているが、私たちのまわりには、自然破壊、公害など心配すべきことが多い。燃焼時の有毒ガス、大量の煙などの例のように、建築材料の面でも心配することが多いのではないだろうか。この言葉は研究者ばかりでなく、材料の製造者も使用者も、心にしっかりととどめておくべきことであるように思われる。

(筆者：東京工業大学教授・工博)

I 試験報告

人工軽量骨材「メサライト」の性能試験

試験成績書第2090号（依試第2063号）

この欄に掲載する報告書は、依頼者の了解を得たものである。

1. 試験の目的

三井金属鉱業(株)より提出された人工軽量骨材「メサライト」の性能試験を行なう。

2. 試験の内容

硬化したメサライトコンクリートの低温における強度性状について、普通コンクリートとの比較試験を行なった。試験項目を下記に示す。

- (1) 圧縮強度および圧縮弾性係数
- (2) 引張強度
- (3) 曲げ強度

3. 使用材料

(1) 骨 材

骨材は依頼者より提出された3種のメサライト試料、および富士川産の細粗骨材を使用した。

メサライト細・粗骨材、川砂および川砂利の骨材試験結果を表1および表2に示す。

表1 細骨材の試験結果

骨材名称	ふるい分け (通過率 %)						粗粒率 (FM)	比重		吸水率 (%)	単位容積 (kg/L)	実積率 (%)
	5mm	2.5mm	1.2mm	0.6mm	0.3mm	0.15mm		表	絶			
	mm	mm	mm	mm	mm	mm		乾	乾			
メサライト	100	95	60	34	18	8	2.85	1.84	1.56	17.6	1.07	67.8
川砂	100	88	69	42	17	4	2.80	2.64	2.60	1.71	1.74	66.9

表2 粗骨材の試験結果

骨材名称	ふるい分け (通過率 %)						粗粒率 (FM)	比重		吸水率 (%)	単位容積 (kg/L)	実積率 (%)
	25mm	20mm	15mm	10mm	5mm	2.5mm		表	絶			
	mm	mm	mm	mm	mm	mm		乾	乾			
メサライト普通品	100	100	98	69	8	1	6.22	1.50	1.27	18.4	0.83	65.2
メサライト普通品	100	100	100	32	7	1	6.60	1.47	1.26	16.8	0.84	66.6
川砂利	100	84	72	36	3	1	6.76	2.66	2.62	1.31	1.70	64.7

(2) セメント

セメントは普通ポルトランドセメント（アサノ）を使用した。セメントの物理試験結果を表3に示す。

表3 セメントの物理試験結果

比 重	粉 末 度		凝 結			安定性 (浸水法)
	比表面積 (cm ² /g)	88μ残分 (%)	水 量 (%)	始 発 (時一分)	終 結 (時一分)	
3.15	3050	1.6	27.5	2—20	3—29	良
フ ロー (mm)	曲げ強さ (kg/cm ²)			圧縮強さ (kg/cm ²)		
	3 日	7 日	28 日	3 日	7 日	28 日
215	31.3	44.1	65.4	121	194	402

(3) A E 剤

A E 剤としてヴァインゾルを使用した。

4. 試験方法

(1) 概 要

メサライトコンクリート、および普通コンクリートを調査して強度試験用供試体を作成し、材令28日まで常温養生を行なった後、供試体を温度-30℃の試験室に移して、所定の方法が凍結または凍結融解し、凍結した状態、または融解した状態で強度試験を行なった。

(2) 調 合

供試コンクリートの計画調合を表4に示す。

表4 コンクリートの計画調合

コンクリート記号	使用骨材		スラ ン ブ (cm)	水セ メント 比 (%)	細骨 材率 (%)	セ メント 量 (kg/m ³)	空 気 量 (%)
	細骨材	粗骨材					
MF15	メサライト	メサライト普通品	15±3	55	50	328±15	5~7
MF22			22±3	55	54	382±15	5~7
MS15	メサライト	メサライト成型品	15±3	55	50	382±15	5~7
MS22			22±3	55	54	382±15	5~7
R 22	川砂	川砂利	22±1	55	48	372±5	5

(3) コンクリート試料の作り方

コンクリート試料の作り方をまとめて表5に示す。

(4) コンクリートの試験

コンクリートの試験方法をまとめて表6に示す。

表 5 コンクリート試料の作り方

項 目	内 容
材料の準備 および計量	JIS A 1132 「コンクリートの強度試験用供試体の作り方」にしたがった。 骨材はすべて表面水のある状態で準備した。
使用ミキサー	容量55 L のコンボール型ミキサーを使用した。
材料の投入	粗骨材→0.3 の水→0.5 の細骨材→セメント→0.5 の細骨材→0.7 の水+A E 剤
練 り 混 ゼ	JIS A 1132 「コンクリートの強度試験用供試体の作り方」にしたがった。1 回の練り混ぜ量を50 l とし、練り混ぜ時間を3 分間とした。

表 6 コンクリートの試験方法

試 験 項 目	試 験 方 法
ス ラ ン プ	JIS A 1101 「スランプ試験方法」にしたがった。
単位容積重量 および空気量	JIS A 1116 「コンクリートの単位容積重量試験方法および空気量の重量による試験方法（重量方法）」および JIS A 1128 「まだ固まらないコンクリートの空気量」
強度試験用 供試体の作成	JIS A 1116 「コンクリート強度試験用供試体の作り方」にしたがった。供試体の寸法を下記に示す。 圧縮強度……10φ×20cm 引張強度……15φ×30cm 曲げ強度……15×15×53cm 融解時の温度測定のために供試体中心部に熱電対を埋設した。
圧 縮 強 度 および弾性係数	JIS A 1108 「コンクリートの圧縮強度試験方法」にしたがって圧縮強度試験を行ない、同時に圧縮変形を測定して圧縮強度の1/2 における弾性係数を求めた。試験材令は1 週、4 週、5 週および6 週とした。
引 張 強 度	JIS A 1113 「コンクリートの引張強度試験方法」にしたがった。
曲 げ 強 度	JIS A 1106 「コンクリートの曲げ強度試験方法」にしたがった。
比 重	圧縮強度試験時に供試体の重量および寸法を測定し、キャッピングの厚さを5mm、比重を2.1 と仮定して測定値を補正し、比重を算出した。

(5) 供試体の養生および凍結

強度試験用供試体は材令1 週まで水中で標準養生を行なったのち、水中から取り出して温度20°C、湿度80%の試験室内で材令4 週まで空气中養生を行なった。材令28日の供試体をアルミ箔でシールして、温度-30°Cの試験室に移し、表7に示す方法で凍結、または凍結融解を行なったのち取り出して強度試験を行なった。また比較のために凍結しない供試体（温度20°C、湿度80%に保存して養生）についても、凍結および凍結融解の強度試験と同じ材令で圧縮強度試験のみを行なった。

表 7 養生、凍結および強さ試験の方法

名 称	凍結・養生および強度試験の方法	試験項目
凍 結	温度-30°Cで1 週間凍結したのち取りだして凍結した状態のまま直ちに強度試験を行ない、材令5 週の低温強度を求めた。	圧縮強度 弾性係数 引張強度 曲げ強度
凍結融解	温度-30°Cで1 週間凍結したのち温度20°Cで1 日融解し、再び1 週間の凍結および融解を行なってから、融解した状態で強度試験を行なって、材令6 週+2 日 常温強度を求めた。	圧縮強度 弾性係数 引張強度 曲げ強度
常 温 (比較用)	凍結を行わずに温度20°C 湿度80%の試験室に保存した供試体について、凍結供試体または凍結融解供試体の試験と同時に（材令5 週および6 週）強度試験を行なった。	圧縮強度 弾性係数

(6) 温度の測定

凍結および融解における温度の測定を、曲げ供試体の中心に埋設した熱電対によって測定した。

5. 試験結果

- (1) コンクリートの調査結果を表8に示す。
- (2) コンクリートの比重測定結果を表9に示す。
- (3) コンクリートの圧縮強度、圧縮弾性係数、引張強度および曲げ強度の試験結果をまとめて表10に示す。
- (4) 4 週圧縮強度に対する諸強度比を表11に示す。また、引張強度および曲げ強度の圧縮強度（同一の材令、温度条件）に対する強度比を表12に示す。
- (5) 凍結および融解における温度測定結果を図1に示す。

表 8 コンクリートの調査結果

コン ク リ ー ト 記 号	使用骨材		ス ラ ン プ	水 セ メ ン ト 比	細 骨 材 率	調 合 (kg/cm ³)				単 位 容 積 重 量 (kg/L)	空 気 量 (%)	
	細 骨 材	粗 骨 材				セ メ ン ト	細 骨 材	粗 骨 材			重 量 方 法	圧 力 方 法
MF15	メ サ ラ イ ト	メ サ ラ イ ト		14.555.050.0	182	331	611	500		1.624	4.8	5.9
MF22		普 通 品		22.055.054.1	213	387	614	426		1.640	4.7	5.6
MS15	メ サ ラ イ ト	メ サ ラ イ ト		18.055.249.9	174	315	611	489		1.589	6.1	7.0
MS22		成 型 品		23.054.954.0	209	381	621	423		1.634	4.5	5.5
R 22	川 砂	川 砂 利		21.854.948.0	201	366	809	882		2.258	4.5	5.1

注 * は骨材修正係数による補正をしない値。

表9 コンクリートの比重試験結果

コンクリートの記号	使用骨材		供試体番号	比重						
	細骨材	粗骨材		1 週	4 週	5 週		6 週 + 2 日		
				常 温	常 温	凍 結	常 温 (比較)	凍 結 融 解	常 温 (比較)	
MF-15	メ サ ラ イ ト	メ サ ラ イ ト 普 通 品	1	1.68	1.65	1.65	1.66	1.65	1.64	
			2	1.67	1.64	1.63	1.67	1.67	1.64	
			3	1.67	1.64	1.65	1.65	1.64	1.63	
			(平均)	1.67	1.64	1.64	1.66	1.65	1.64	
MF-22			1	1.72	1.67	1.65	1.66	1.64	1.66	
				2	1.69	1.65	1.65	1.67	1.66	1.67
				3	1.70	1.67	1.67	1.65	1.65	1.65
				(平均)	1.70	1.66	1.66	1.66	1.65	1.66
MS-15	メ サ ラ イ ト	メ サ ラ イ ト 成 型 品	1	1.60	1.57	1.57	1.57	1.57	1.53	
			2	1.62	1.57	1.58	1.56	1.56	1.54	
			3	1.62	1.58	1.57	1.55	1.57	1.53	
			(平均)	1.61	1.57	1.57	1.56	1.57	1.53	
MS-22			1	1.69	1.65	1.63	1.61	1.65	1.60	
				2	1.68	1.66	1.66	1.63	1.64	1.61
				3	1.68	1.65	1.66	1.65	1.66	1.61
				(平均)	1.68	1.65	1.65	1.63	1.65	1.61
P-22	川 砂	川 砂 利	1	2.29	2.28	2.25	2.26	2.25	2.24	
			2	2.28	2.25	2.25	2.26	2.24	2.25	
			3	2.27	2.27	2.28	2.26	2.26	2.25	
			(平均)	2.28	2.27	2.26	2.26	2.25	2.25	

表11 強 度 比 (対4週圧縮強度)

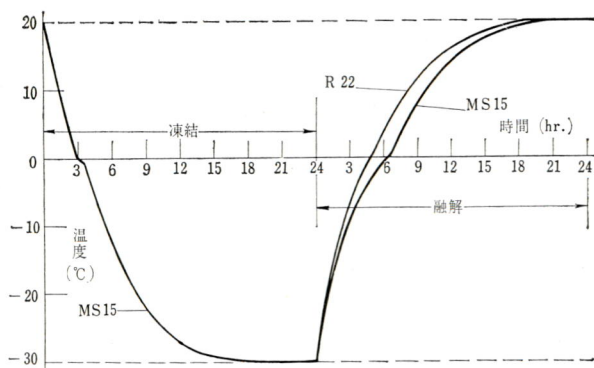
コンクリート記号	圧縮強度						引張強度			曲げ強度		
	4週圧縮強度						4週圧縮			4週圧縮		
	1週	4週	5週	6週+2日	4週	5週	6週	4週	5週	6週	4週	5週
MF15	0.57	1.00	1.21	1.02	1.01	1.07	0.09	0.11	0.07	0.14	0.30	0.11
MF22	0.52	1.00	1.57	0.99	1.01	1.05	0.09	0.11	0.05	0.15	0.28	0.10
MS15	0.46	1.00	1.61	1.16	0.86	1.12	0.07	0.19	0.10	0.15	0.35	0.13
MS22	0.50	1.00	1.70	1.08	1.08	1.07	0.06	0.17	0.08	0.15	0.31	0.11
R 22	0.47	1.00	1.76	1.06	1.04	1.15	0.08	0.24	0.09	0.14	0.38	0.16

表12 強 度 比 (対圧縮強度各条件)

コンクリート記号	引張強度			曲げ強度		
	圧縮強度			圧縮強度		
	4週	5週	6週+2日	4週	5週	6週+2日
MF15	0.09	0.09	0.07	0.14	0.25	0.11
MF22	0.09	0.07	0.05	0.15	0.18	0.10
MS15	0.07	0.12	0.11	0.15	0.22	0.15
MS22	0.06	0.10	0.07	0.15	0.28	0.10
R 22	0.08	0.14	0.09	0.14	0.22	0.15

表10 コンクリートの強度試験結果

コンクリートの記号	使用骨材		供試体番号	圧 縮 強 度 ・ 弾 性 係 数 (kg/cm ²)						引 張 強 度			曲 げ 強 度		
	細骨材	粗骨材		1 週	4 週	5 週		6週+2日		4 週	5 週	6週+2日	4 週	5 週	6週+2日
				常 温	常 温	凍 結	常温(比較)	凍結融解	常温(比較)	常 温	凍 結	凍結融解	常 温	凍 結	凍結融解
MF 15	メ	メ	1	163 (11.5)	289 (13.7)	356 (14.6)	271 (12.4)	272 (14.6)	287 (16.3)	23.7	30.1	19.3	40.3	82.2	30.3
	サ	サ	2	164 (10.6)	278 (13.3)	344 (14.9)	293 (13.1)	296 (12.6)	327 (16.7)	28.1	35.2	18.3	40.3	73.5	30.3
	ラ	ラ	3	160 (11.6)	289 (13.9)	336 (15.1)	306 (13.7)	265 (13.9)	301 (-)	23.4	31.5	18.9	—	97.3	30.5
	イ	イ	(平均)	162 (11.2)	285 (13.6)	345 (14.9)	290 (13.1)	278 (13.7)	305 (16.5)	25.1	32.3	18.8	40.3	84.3	30.4
MF 22	ト	ト	1	153 (12.3)	283 (13.9)	477 (17.2)	265 (12.6)	285 (12.9)	300 (13.5)	24.4	32.1	11.3	45.7	82.6	27.2
		普	2	148 (11.1)	270 (13.5)	458 (17.4)	301 (13.0)	278 (12.8)	305 (13.7)	25.2	30.7	16.6	38.7	80.8	29.7
		通	3	142 (11.4)	308 (13.5)	420 (16.0)	287 (12.7)	303 (13.4)	296 (14.1)	25.9	32.9	16.6	42.7	77.1	32.7
		品	(平均)	148 (11.6)	287 (13.6)	452 (16.9)	284 (12.8)	289 (13.0)	300 (13.8)	25.2	31.9	14.8	42.4	80.2	29.9
MS 15	メ	メ	1	100 (9.6)	214 (13.0)	340 (15.0)	256 (14.0)	215 (12.9)	271 (10.5)	17.1	50.1	24.4	30.7	81.9	31.9
	サ	サ	2	112 (10.9)	250 (13.4)	405 (15.1)	274 (13.4)	190 (12.1)	257 (10.3)	15.8	39.2	23.4	34.0	78.0	31.9
	ラ	3	105 (10.1)	232 (13.1)	377 (15.0)	281 (13.2)	188 (10.4)	255 (-)	15.9	42.7	23.4	37.1	83.0	27.2	
	イ	イ	(平均)	106 (10.2)	232 (13.2)	374 (15.0)	270 (13.5)	198 (11.8)	261 (10.4)	16.3	44.0	23.7	33.9	81.0	30.3
MS 22	ト	ト	1	140 (12.3)	255 (14.6)	464 (16.2)	324 (13.0)	306 (12.4)	316 (13.3)	17.6	48.1	21.2	35.9	94.3	36.9
		成	2	131 (11.2)	303 (14.2)	456 (16.2)	265 (13.8)	303 (13.2)	270 (13.1)	20.1	44.5	26.6	33.0	78.9	25.9
		型	3	133 (9.8)	259 (13.7)	465 (15.9)	291 (14.6)	277 (13.0)	—	12.0	44.5	22.0	40.7	81.3	26.4
		品	(平均)	135 (11.1)	272 (14.2)	462 (16.1)	293 (13.8)	295 (12.9)	293 (13.2)	16.6	45.7	23.0	36.5	84.8	29.7
R 22	川砂利	川	1	123 (15.4)	256 (22.5)	474 (26.3)	264 (22.0)	246 (23.2)	315 (20.5)	20.3	63.5	25.5	35.3	107.1	37.7
		砂	2	124 (18.6)	273 (21.1)	463 (25.5)	283 (21.3)	291 (21.8)	285 (20.7)	20.3	58.7	21.0	37.0	119.2	43.1
		利	3	123 (15.8)	254 (20.5)	440 (25.7)	288 (23.2)	279 (21.7)	298 (20.9)	18.3	65.3	21.0	36.4	72.5	41.9
		(平均)	123 (16.6)	261 (21.4)	459 (25.8)	278 (22.2)	272 (22.2)	299 (20.7)	19.6	62.5	22.5	36.2	99.6	40.9	



6. 試験の担当者・期間および場所

担当者 中央試験所長 藤井 正一
無機材料試験課長 久志 和巳
実施者 川端 義雄
江口 勇
期 間 昭和44年7月21日から
昭和45年2月9日まで
場 所 中央試験所

◀図1 供試体温度測定結果

Ⅱ 業務報告

1. 受託試験

(イ) 3月度の工事用材料を除いた受託件数は82件(依試第2642号～第2723号)であった。その内訳を表1に示す。

(ロ) 3月度の工事用材料の受託件数は総数441件で、その内訳を表2に示す。

表2 工事用材料の受託状況(件数)

内 容	受 付 場 所		計
	中央試験所	本 部 (銀座事務所)	
コンクリート シリンダー 圧縮試験	212	66	278
鋼材の引張・ 曲げ試験	45	103	148
骨材試験	3	4	7
そ の 他	5	3	8
合 計	265	176	441

2. 調査・技術相談

3月度は1件であった。

表1 依頼試験受付状況(依試第2642号～第2723号)

NO.	材 料 区 分	材料一般名称	試験内容の概要	件数
1	木材, 繊維質材	塗り壁 合板, 紙, 木材	圧縮, 曲げ, 防火材 引張強さ, 引裂度	4
2	モルタル・コンクリート	耐火モルタル モルタル接着増強剤	接着力, 耐熱	2
3	鉄 鋼 材	スチール製盤, ボルト	耐火, 縮付力, 引張	3
4	家 具	金庫, いす, 保管庫 机, 耐火庫	耐火, 荷重, 塗膜, 衝撃 落下, 引出しくり返し	6
5	建 具	アルミニウム合金製サッシ, スチールサッシ アルミドア, ジャッター	強さ, 気密, 水密, 防火	14
8	プラスチック材	ビニタイル, ゴムタイル 発泡プラスチック アクリル樹脂, ポリエチレン	摩耗, すべり, へこみ, 残留へこみ, 耐薬品, 寸 法安定性, 吸水, 熱伝導 率, かさ比重, 滑り係数	10
9	ジール材	油性コーキング, ポリサルファイト素シー リング材	収縮, 保油性, スランブ 付着性, 硬化率, 可使時 間, タックフリー, 汚染 性, スランブ, 耐アルカ リ性, かたさ	1
10	石材・造石	ロックウール ブロック, アスベスト	摩耗, 熱伝導率, 防火材 料, はく離, 接着	4
11	粘土製品	磁器タイル 衛生陶器	そり, ばち, 曲げ, 吸水 凍結融解, インキ, 急熱 貫入, はく離接着, 摩耗 ひび割れ	7
12	ガラス材	ガラス繊維材	防火材料, 密度, 厚さ, 熱伝導率	12
13	紙布・カーテン・敷物類	ビニルシート キャンバス	はとめ, 引張, クリープ 引裂	6
14	皮膜防水材	アスファルトルーフィング	1巻の重量, 1巻の長さ 幅, 厚紙の単位重量, 引 張強さ, 折り曲げ, 耐熱 アスファルトの浸透状況	1
15	パネル類	壁材, 間仕切材	遮音, 曲げ, 衝撃, 圧縮 抗打, 断熱, 相関変位	3
16	防・耐火材	ケイ酸カルシウム吹付材 耐火屋根材, 吹付岩綿	耐火, 防火材	9
合 計				82

2. 会合その他の事項

(1) 第16回理事会、第12回評議員会

場 所 銀座オリンピック

日 時 昭和44年3月19日

出席者 理事 19名(委任状を含む)

評議員 40名(")

臨席者 通商産業省 窯業建材課長 倉部行雄

工業技術院 材料規格課長 分部武男

通商産業省 窯業建材課 石渡 宏

" " 米倉久明

議題

第一号議案

昭和44年度収支予算変更(案)に関する件

提出の収支予算変更(案)につき、昭和44年4月～昭和45年2月までの11ヵ月間の事業報告が行なわれ、予算変更(案)を附議、異議なく可決された。

第二号議案

昭和45年度事業計画(案)および収支予算(案)

(イ) 事業計画(案)

昭和45年度は、自立体制確立の第3年目となり、加えて通商産業ならびに建設両省の共同管理下に運営される第2年目の年であり、事業の一層の安定躍進を図り、建設業界への貢献度を一層昂めることとしたい。

45年度の重要事業計画は、およそつぎのとおりである。

(1) 施設関係

現在試験装置整備5ヶ年計画を立案、目下建設、通商産業関係官庁の検討を迎ぎつつある。整備5ヶ年計画の初年度たる45年度は約57,000千円の施設を整備し、事業増加に備えることとしている。

計画案の詳細については改めて付議する。

(2) 寄附金関係

45年度以後の整備5ヶ年計画の所要財源の大部分を建設業界に期待すると同時に、建材業界からも重ねて支援を求めることとする。

(3) 工業標準化原案作成関係

本年度工業標準化原案作成関係は、新規のもの9件、改正のもの5件計14件を予定している。

自主的に行なう新原案作成も含め、審議を推進する。

(資料5)

(4) 建築基準法ほか法律関係の試験

建築基準法、寒地住宅法関係の試験実施に積極的な協力を図る。

(5) 住宅規格関係の試験

工業技術院の「住宅産業における材料および設備の標準化のための調査研究」による、基本設計および構造設計に基づく試作パネルの試験実施に積極的な協力を図る。

(6) 技術相談、調査研究、講習会等の実施

J I S許可申請工場の技術指導などは、44年度において好実績を上げ得たが、本年度も積極的に進めるとともに建設材料に関する技術的相談、調査研究、講習会等を積極的に進める。

(ロ) 収支予算(案)

昭和45年度収支予算(案) 省略

昭和45年度工業標準化原案作成受託予定

件 名	
新 規	
1	建築材料の摩耗試験方法(引き法)
2	木れんが接着剤
3	建築用ガスケット
4	けい酸カルシウム石綿セメント板
5	ドアチェック
6	フロアヒンジ
7	建築用構成材(パネル)の性能試験方法
8	バームキュライト
9	ハードボードおよびパーティクルボードを主体とした集成床材
改 正	
10	JIS A 5208 粘土がわら
11	JIS A 5511 丹銅板製および黄銅板製ぎばし付丁香 (ブシュ付き)
12	JIS A 5516 " (玉軸受け)
13	JIS A 5705 床用ビニルタイル
14	JIS A 1321 「建築物の内装材料および工法の難燃性試験方法」の改正(45.1.1)に伴い難燃性に関する下記規格改正 (1) JIS A 5414 バルブセメント板 (2) JIS A 5701 ガラス繊維強化ポリエステル波板 (3) JIS A 5703 内装用プラスチック化粧ボード類 (4) JIS A 5905 軟質繊維板 (5) JIS A 5906 半硬質繊維板 (6) JIS A 5907 硬質繊維板 (7) JIS A 5908 パーティクルボード (8) JIS A 5909 パーティクルボード化粧板 (9) JIS A 6301 吸音用あなきせこうボード (10) JIS A 6304 吸音用軟質繊維板 (11) JIS K 5661 建築用防火塗料

(2) 工業標準原案作成関係

・木れんが接着剤の接着力試験方法

第7回小委員会 2月18日

原案の問題点と逐条検討。

第2回本委員会 3月4日

原案の逐条審議をし一部修正を行ない、答申の事承認。

・建築材料の摩耗試験方法(研摩紙法) 第7回小委員会 2月20日 第8回 3月3日

摩耗試験機の各部位の寸法。試験荷重、試験回転数ならびに原案の逐条検討。

・綿布、麻布または石綿で補強したアスファルトルーフィング 第3回小委員会 2月23日 第4回 3月3日

アスファルトの浸透性試験の第2次実験報告。原案

の逐条検討。

- ・床用ビニルシート 第6回小委員会 2月23日
試験項目とその規格値および原案の逐条検討。
- ・防水工事用アスファルトコンパウンド 第7回小委員会 2月27日
針入度、軟化点、だれ長さ、および加熱安定性に関する第2次実験報告。フラス破壊点の試験機装置の検討。原案の逐条検討。
- ・ステンレス普議丁番 第1回幹事会 3月4日
原案の課題となったステンレス材質と厚さにつき検討。
- ・自由丁番 (JIS A 5502) 第3回幹事会 3月3日
第4回 3月4日
原案の修正箇所、逐条見直し。
- ・丁番の繰返し開閉試験方法 第1回幹事会 3月6日
原案の最終検討。
- ・引戸レール (JIS A 5509) 改正 第1回幹事会 3月6日
原案の修正箇所検討。
- ・せっこうボード (JIS A 6911) 改正 第6回小委員会 3月15日
燃焼性試験その他原案改正箇所について検討。化粧せっこうボードについて改正案検討。
- ・空洞コンクリートブロック (JIS A 5406) 改正 第

8回小委員会 3月16日

改正原案の改正箇所と調査結果の確認。

第3回本委員会 原案の改正要点と逐条審議。答申案承認。

(3) 日本住宅公団関係 (KMK)

- ・簡単アスファルト 第3部会 3月11日
調査研究結果報告

(4) 業務報告

本部1回、中央試験所3回

(5) その他

三木会 (関係新聞社との懇談会)

建材試験センター会報 Vol. 6 No. 5 (5月号)

財団法人 建材試験センター

本 部 東京都中央区銀座六丁目15の1
通商産業省銀座東分室内
電話 (542) 2744 (代)

中央試験所 埼玉県草加市稲荷町1804

電試 (0489) 24-1991 (代)

事務局だより

「建材試験センター会報」は、昭和40年10月以来工業調査会刊行の月刊雑誌「建築材料」に登載して参りましたが、このたび都合により、今月号限りでこの登載をやめることになりました。

従来この会報を抜刷りとして能う限り広い範囲にわたって当センターから直送しており、今後も当センターが単独に刊行を継続いたしますが、「建築材料」のみで会報を購読しておられる方々にはご不便をおかけすることになりますので、それらの方々でご希望でしたら今後弊方から直接にお送りいたしたく、ついてはご希望の方々は上記建材試験センター本部にお申込みください。

従来会報編集刊行について格別のご協力下さいました工業調査会に対しまして、この紙面を借りて深甚の謝意を表する次第であります。

